

持続可能な里山里海を目指す 珠洲市の取り組み

令和4年1月12日

珠洲市

「珠洲市の概要」

- 人口：13,370人（住民基本台帳、R3.11.30現在）
（参考）市制施行時人口 38,157人（S29）
- 世帯数：5,979世帯
- 高齢化率：約51%（R3.12.31現在）
- 面積：247.20km²
- 海岸延長：約67km

世界農業遺産（GIAHS）

国定公園

重要湿地、重要里地里山、重要海域



珠洲市のまちづくり指針

珠洲市まちづくり総合指針：最上位計画

珠洲市まち・ひと・しごと創生総合戦略：基本施策

基本コンセプト：日本一幸せを感じられる珠洲市を目指す
幸福度の高い地域社会を築き、成熟化社会を迎える日本で
里山里海地域が目指すべき姿を国内外に示す。

珠洲の魅力を形成する4つの特性

大学
連携
2006
~

世界
農業
遺産
2011
~

奥能登
国際
芸術祭
2017
2021

SDGs
未来
都市
2018
~

珠洲市の自然共生への取り組み

- 2006年 3月 珠洲市農村環境計画 策定
- 2006年10月 能登半島里山里海自然学校 開校
- 2007年10月 「能登里山里海マイスター」養成プログラム 開講
- 2008年 8月 NPO法人能登半島おらっちゃんの里山里海 設立
- 2011年 6月 世界農業遺産「能登の里山里海」に認定
- 2013年 3月 珠洲市生物多様性保全のための地域連携保全活動計画 策定
- 2013年 4月 珠洲市自然共生室 設置
- 2014年10月 能登里山里海研究部門（珠洲市） 設置
- 2016年 4月 地域循環共生圏構築検討業務の実証地に選定
- 2018年 6月 SDGs未来都市に選定
- 2018年10月 能登SDGsラボ 設立
- 2019年 3月 珠洲市生物文化多様性基本条例 制定



能登学舎



NPO法人能登半島おらっちゃんの里山里海

コンセプト: 持続可能な里山里海事業づくり

保全と活用のバランス

生業として関われる仕組みづくり

担い手育成を子供の時から

主な活動内容

保全活動： ビオトープの整備、保全林の維持整備、米づくり

調査活動： 水田地帯での生物相調査、アメリカザリガニのモニタリング
小型地引網での魚類相調査、アサギマダラのマーキング
モニタリング1000（ホタル・カエルの卵塊）

生業づくり： シイタケ栽培、ジュンサイの採集・販売

啓発・教育： 海岸清掃、釣り大会、保全林などの見学受け入れ
生き物観察会、食文化の体験イベント

珠洲の里山 生き物観察会

体験を通じて次世代に里山の環境を伝える取り組み
(市内全9小学校で実施 2013年～)

①1回目観察会:5～7月



③まとめ授業:9～11月に1～2回



②2回目観察会:8～9月



④報告会(11～12月)



市民参加による珠洲市のため池調査

(環境省：生物多様性保全推進事業2019～2021)

Google 2019調査状況

対象とするため池：218ヶ所（3年間）

調査頻度：年3回

（6-7月）、9-10月、3月



タモ網での採集



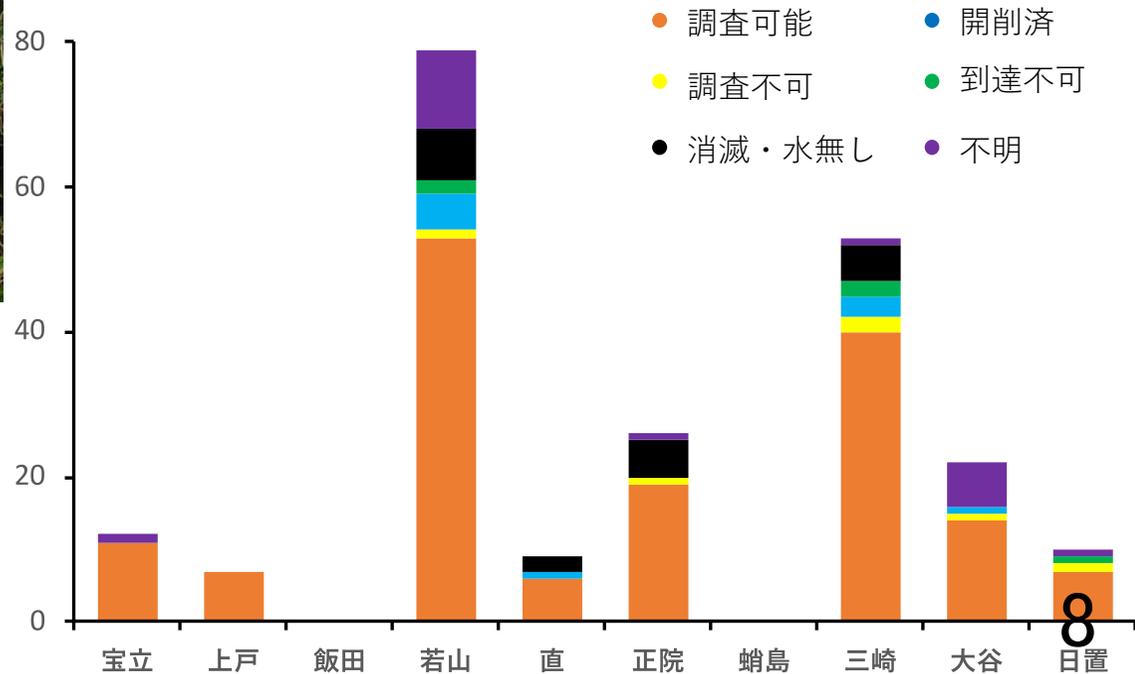
かごわなトラップ

ため池の現況

約3割のため池は、すでに消滅していたり、たどり着けない状況にある
調査可能だったため池についても、放置されているため池がある



地区別ため池数



生物多様性確保に向けた課題と取組みの方向性

【課題】:1次産業の衰退と過疎・高齢化

- (1) 過疎化、高齢化による「保全困難地」の拡大
 - ・ 荒廃ため池、生業の衰退
- (2) 環境（生態系サービス）に対する意識向上
 - ・ 地域の資源を再認識することの必要性
- (3) 環境保全に関する情報提供（絶滅危惧種、外来種など）

【取組みの方向性】:いかにマンパワーを確保するか

- (1) コミュニティ活動の持続化
 - ・ 移住者、転入企業との新たなコミュニティの創造
- (2) 環境学習の持続的展開と環境ビジネス（学習体験など）の展開
 - ・ SDGsの観点からの環境学習を継続
- (3) 異分野とのネットワークを促進
 - ・ 省庁間での連携事業

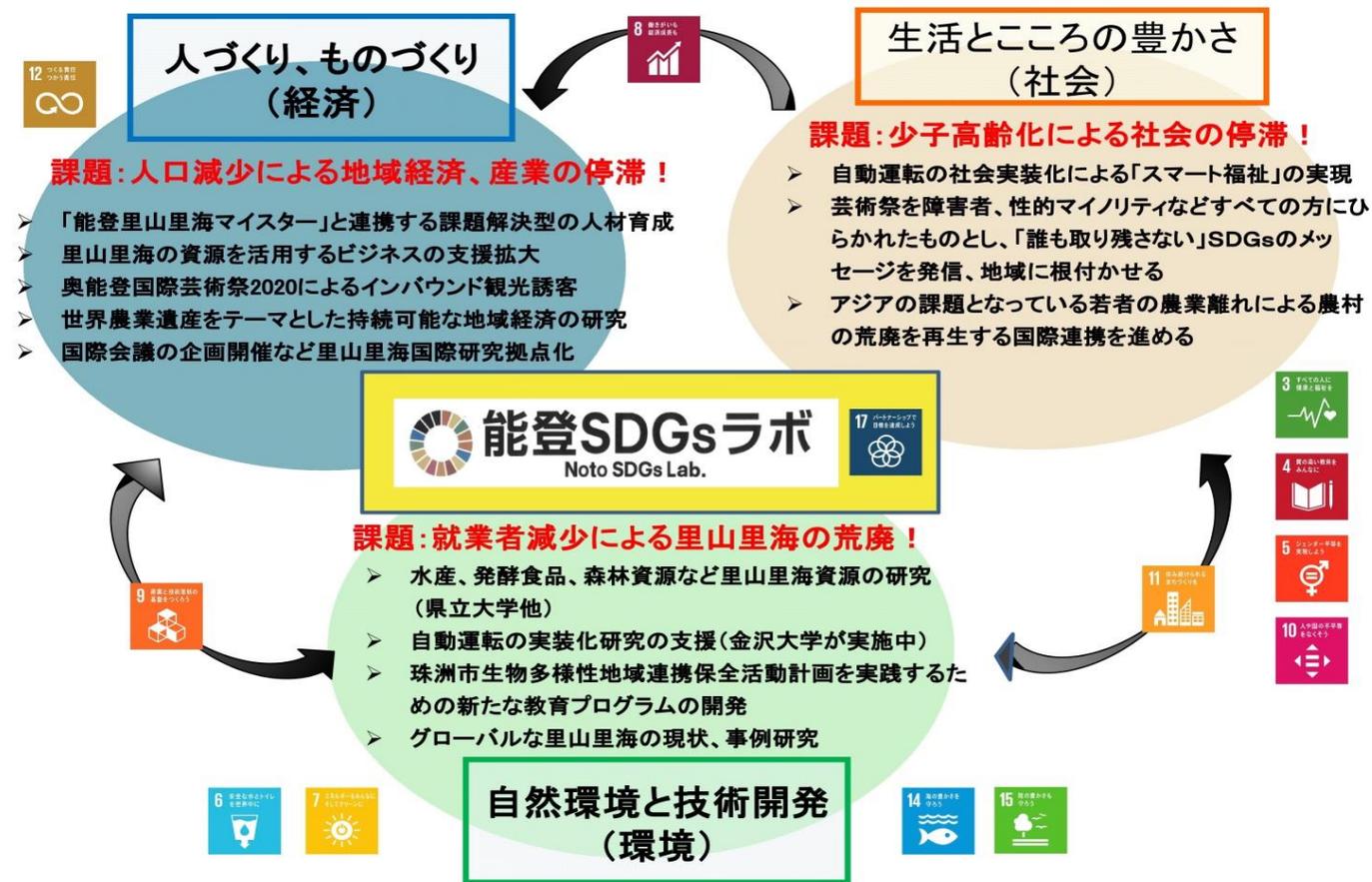
能登SDGsラボについて

人や資源、技術、知識、知恵などをつなぐことで、

環境・社会・経済をつなぎ、

相乗効果を生み出しながら持続可能なまちづくりを進めていく

能登SDGsラボ：環境、社会、経済成長の統合へ



「SDGs 未来都市」選定証授与式 (2018.6.15)



「能登SDGsラボ」開所式 (2018.10.1)

ご清聴ありがとうございました

